

事例 7 製作物の進捗や児童の理解度に合わせて ICT 端末を活用した授業展開の事例

○学年 第 6 学年

○主な内容 内容「B衣食住の生活」(5)生活を豊かにするための布を用いた製作 ア(ア)(イ)イ

○事例のポイント

- ①身近な袋の観察を通して、目的に応じた袋の作りの違いに気付く、自分が製作する袋を考えるときに生かす。
- ②第 5 学年での布を用いた製作の反省を生かして問い（課題）を立てる。

ICT を活用した主な学習場面

- ・製作手順やミシンの使い方、縫い方を調べる場面
- ・本時の製作活動の進捗を教師に報告し、自分の製作活動を振り返る場面

ICT 活用の利点

- ①児童が作りたい袋の作り方を調べる際や自分の知識、製作物の進捗に合わせて個別に ICT 端末を使いながら製作ができる。
- ②動画でミシンの準備の仕方や縫い方を確認することができる。
- ③教師が、児童の製作物の進捗を把握し、アドバイスをしたり評価したりすることができる。

1 題材名 「ソーイングで生活を豊かに」 内容 B (5) ア(ア)(イ)イ 第 6 学年

2 題材について

(1) 児童について 省略

(2) 題材について

本題材は、内容「B衣食住の生活」の(5)「生活を豊かにするための布を用いた製作」に関する題材である。ここでは、生活を豊かにするための布を用いた製作について課題をもって、製作に必要な材料や手順、製作計画、手縫いやミシン縫い及び用具の安全な取り扱いに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、製作計画を考え、製作を工夫することができるようにすることをねらいとしている。

2 学年間を見通して授業が展開できるよう計画を立て、第 6 学年での学習では、布製品のよさや特徴を考え、第 5 学年で学習した布を用いた製作の経験を生かして、自分や家族の生活が快適で楽しくなる袋作りの計画を工夫して立てる活動を行う。製作では、必要な布の大きさや作り方を自分で調べ、工夫して作り、出来上がった後活用し、工夫を交流して次の製作の意欲へつなげる学習を行う。

(3) 指導について

指導に当たっては、第 1 時「どのような袋をどのように使っているだろう」では体育着袋や給食袋など普段使っている袋を観察する活動を通して、使う目的に応じて、形や大きさ、布の種類、ひもや持ち手のついている位置等が違うことに気付かせ、袋作りにつなげていけるようにする。第 2～9 時「目的に合った袋を作ろう」では、第 2 時に、布で袋作りをする前段階として、線をかいたり、切ったりしやすい紙等で仮の袋作りをし、試行錯誤しながら、ぬいしろやゆとりの必要性を認識させ、袋の構造を理解しながら袋の作り方を考える活動につなげていく。第 3 時では、今後の生活に自分や家族が生かせそうな袋を作ることをゴールに、まずポートフォリオに第 5 学年での布を用いた製作で学んだ知識や技能を書き出したり、作成したときに工夫したことやうまくいかなかったことを書き出したりしながら、袋作りにおける問いを見いだす活動を行う。その後、製作手順を ICT 端末で調べたり、ミシンの準備や縫う動作を動画で確認したりしながら、個別に製作計画を立てていく。第 4～9 時では、友達と協力したり、ICT 端末を活用したりしながら袋作りを行う。製作経過を家庭科ノートと ICT 端末で記録し、適宜自分の製作を振り返りながら、第 3 時で立てた課題が解決できるような袋作りを行わ

せたい。第 10 時では袋作りを振り返り、自分の作品の自己評価をしたり、友達の作品の評価やアドバイスをしたりしながら、第 3 時で立てた問いの答えを見つけ、布を用いた製作について今後の生活でどう生かしていけそうか考えを共有させたい。

3 題材の目標

- (1) 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画、手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取り扱いについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
〈知識及び技能〉
- (2) 生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、工夫して課題を解決する力を身に付ける。
〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について主体的に取り組んだり、課題解決に向けて、活動を振り返ったりして、生活を工夫し、実践しようとする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
製作に必要な材料や手順について理解している。 手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取り扱いについて理解しているとともに、適切に扱える。	生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

5 題材の指導と評価の計画（10時間扱い）

〔1〕 どのような袋をどのように使っているだろう 1 時間

〔2〕 目的に合った袋を作ろう 本時（2／8）8 時間

〔3〕 作った袋で生活を豊かに 1 時間

小題材	時間	○ねらい ・ 学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
どのような袋をどのように使っているだろう	1	○身近な袋に関心を持ち、目的に応じた工夫に気付くことができる。 ・ 普段使っている袋を観察し、目的に応じた作りの工夫を見付ける。	事例のポイント①	①生活を豊かにするための布を用いた物の製作について問題を見いだしている。 (行動観察・ノート)	
	2	○袋の大きさや縫いしろ、ゆとりの必要性を考えることができる。 ・ 仮の袋作りを行う。			
	3 本時	○袋作りに興味をもち、自分に合った問いを設定し、製作計画を立てることができる。 ・ 課題を設定する。 ・ 製作計画を立てる。	①製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。 (行動観察・ノート)	事例のポイント②	

編 P122 指導計画作成の留意事項(2)

作 っ た 袋 で 生 活 を 豊 か に	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9	○製作計画を基に縫い方や手順を考え、工夫して製作することができる。 ・布にしるしをつける。 ・仮縫いをする。 ・両脇を縫う。 ・口あきを縫う。 ・ひも通しを縫う。 ・持ち手をつけたり、ひもを通したりする。 ・自分の生活に合った機能性をもたせ仕上げる。 (ポケット、飾り、ボタンなど)	②手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取り扱いについて理解しているとともに、適切に製作できる。 (行動観察・製作物・ノート・ペーパーテスト)	②生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画及び製作についての課題を考え、解決方法を工夫している。 (行動観察・ノート) ③生活を豊かにするための布を用いた物の製作についての課題解決に向けて、実践を評価したり、改善したりしている。 (行動観察・ノート)	①生活を豊かにするための布を用いた物の製作に主体的に取り組み、課題解決に向けて活動を振り返り改善しようとしたり、製作について工夫し、実践しようとしたりしている。 (行動観察・ノート・ICT端末での製作経過報告・ポートフォリオ)
	第4～9時 編P122 指導計画作成の留意事項(1)	ICT活用の利点①②		ICT活用の利点③	
作 っ た 袋 で 生 活 を 豊 か に	10	○袋作りを振り返り、自分で製作したものを使う楽しさや製作への自信をもち、これからの生活に生かす工夫を考えることができる。 ・袋作りを振り返る。 ・自分の作品について説明したり、友達の作品について評価したりする。 ・友達の発表やコメントから自分の袋を評価し、これからの生活でどう生かしていきたいかを考え、共有する。		④生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や課題解決に向けた一連の活動を振り返って、わかりやすく表現している。 (行動観察・ノート)	②家族の一員として生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて、一連の活動を振り返り、改善しようとしている。 (行動観察・ノート・ポートフォリオ)

6 本時の学習指導（本時 3／10）

(1) 目標 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解する。〈知識及び技能〉

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点（・） 評価規準（◇） 【評価の観点】（評価方法） 手立て（→）
2	1 前時までの活動を振り返り、本時の学習の課題を知る。	学習課題 今までの学習や経験を生かして、自分の作りたいふくろを考え、ふくろ作りの計画を立てよう。 ・第5学年の布を用いた製作で身に付けた知識やできるようになった技能について想起し、記入するよう伝える。 ・第1時、第2時の学習で学んだ、目的に応じた袋の形や布の種類の違い、ゆとりの必要性などを想起し、記入するよう伝える。 ・第5学年の布を用いた製作を通して思ったことやできなかったことを生かして考えられるようにする。 事例のポイント②
10	2 今までに学んだ知識や技能を書き出す。	
5	3 問いを考える。	
	問い〔例〕 使いやすくて、じょうぶで長持ちするふくろを作るにはどうしたら良いだろうか。	

25	編 P122 指導計画作成の留意事項(2)	・今までに身に付けた知識や技能、第5学年での布を用いた製作における改善点を踏まえて、袋作りで乗り越えたい課題（問い）を考えられるようにする。		
	4 自分の作りたい袋を考える。	・作りたい袋を具体的に考えさせ、ポートフォリオに記入するよう伝える。 ・布の大きさや布の種類等細かく記入するよう伝える。		
	作りたい袋〔例〕 ○習い事のサッカーに持っていくふくろを作りたい。自転車に乗っていくからナップザック型のふくろにしたいな。夜に行くこともあるから反射材もつけたいな。 ○犬の散歩に持っていくふくろを作りたい。トートバック型でありあまり大きくないものにしたいな。毎日使うから持ち手をじょうぶにしたいな。			
3	5 製作計画を立てる。	・製作計画は家庭科ノートに記入するよう伝える。 ・基本の製作手順（布に印をつけ、布を裁つ⇒脇を縫う⇒出し入れ口を縫う⇒持ち手やひもをつける）をおさえ自分の作りたいものに合わせた計画を立てられるようにする。 ・教科書の二次元コードを読み取り作り方を確かめられるようにする。 ・ICT端末で作りたい袋の作り方を調べるよう伝える。 ・飾りやポケットをつける場合は先に縫うことを伝える。		
	◇製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。 【知識・技能】（行動観察・ノート） <table><tr><td>おおむね満足できる状況（B）</td><td> ・製作に必要な材料や手順が、自力で製作計画が立てられる。 →基本の製作計画を参考にさせ、同じ種類の袋を作る友達の計画を参考にするよう助言する。 </td></tr></table>		おおむね満足できる状況（B）	・製作に必要な材料や手順が、自力で製作計画が立てられる。 →基本の製作計画を参考にさせ、同じ種類の袋を作る友達の計画を参考にするよう助言する。
	おおむね満足できる状況（B）	・製作に必要な材料や手順が、自力で製作計画が立てられる。 →基本の製作計画を参考にさせ、同じ種類の袋を作る友達の計画を参考にするよう助言する。		
6 本時の学習をまとめ、振り返りをする。 次時の持ち物を確認する。	・本時の振り返り（頑張ったこと、やってみたいこと等）を書くよう伝える。 ・次時から製作に入ることを伝え、自分が必要な持ち物を確認するよう伝える。			

7 学習評価の具体例

〈第3～10時 ポートフォリオと家庭科ノート（ワークシート）の併用〉

・ポートフォリオ

学んだ知識や技能 第3時で記入	生活を豊かにソーイング 6年 組 番 【問い】	学習後：あなたの問いについての答えや布を使ったものづくりにおいて、今後、どのようなことができそうですか。
作品①エプロンづくりで思ったこと・気がついたこと・工夫したこと・できなかったこと・使ってみての感想等	作品② 第10時 製作を振り返りながら記入	第10時記入 出来あがった時の感想 使ってみての感想

ポートフォリオで
記入した問いと
同じものを記入

第3時で計画を記入

第3時で計画の
振り返りを記入

第4～9時
毎時間、めあてとそれを達成するためのアイデア
振り返りを記入

	6-3	自分だけのふくろを作ろう	学習した日 月 日
	年 組 番 名前		

1 【問い】

2 ふくろづくりの計画を立てよう。

日にち	計 画	めあて・アイディア	ふり返り ○うまくできた ●うまくできなかった
① ／		⑥ の	
		の	
② ／		⑥ の	
		の	
③ ／		⑥ の	
		の	
④ ／		⑥ の	
		の	
⑤ ／		⑥ の	
		の	
⑥ ／		⑥ の	
		の	

3 ふくろ作りの計画をふり返そう。

編者 監修 監修 監修 監修 監修	6-4	ふくろ作りをふり返ろう	学習した日 月 日
年 組 番 名 前			

1 ふくろ作りのふり返りをしよう

作ったふくろを見て評価しよう	評価	できあがり写真
計画通りに作ることができた。		6-4 のノートは 第 10 時に 活動を振り返り ながら記入
しょうど 丈夫に作れた。		
美しく仕上げられた。		
縫い方が工夫できた		
ゆとりをもたせて作ることができた。		
ふくろ作りの作業をふり返り評価しよう	評価	
安全に気をつけて作ることができた。		
準備や片づけをしっかりとできた。		
作業に集中して取り組むことができた。		
友達と協力したり、デジタル教科書で調べたりしながら作ることができた。		
よくできた◎ できた○ もう少し△		

2 自分の作品への思いを友達に伝え、アドバイスをしてもらおう。

デザイン	縫い方	大きさ	機能

よい点…赤鉛筆で書く 改善点…青鉛筆で書く

3 友達の作品のよかったところや今後の自分の作品に生かしたいことを考えよう。

6-4のノートは
第10時に
活動を振り返り
ながら記入

〈評価例〉主体的に学習に取り組む態度①



【主体的に学習に取り組む態度①】

※「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の具体的な例

振り返り ○…良い点 ●…反省点

- しつけをしてからぬったので、ずれずにぬえた。
- ひもをつけながら途中でがんじょうにする方法を見つけた。
- わからないところは友達に聞いた。
- 作っている途中で裏返して内側がぬえているか確かめた。
- もう少し飾りをつけてもよかった。
- 新しい袋の使い道を見つけた

それぞれの作業を行いながら、例示された作業を行うだけでなく、しつけをしてから脇を縫うとずれないことを見つけたり、ひもをつけながら途中で頑丈にするための方法を見つけたり、さらに縫っている途中で、内側が縫えているか確かめるなど、自らの学習を調整しながら、作業を進めていった。また、作り終わった袋について、飾りが入っていても良かったと反省していたり最初に考えついていた袋の使い道とは別の使い道を思いついたり、身に付けた知識・技能をもとに、思考・判断しながら、粘り強く袋作りに取り組んでいる様子も見られたので、ポートフォリオへの記入と行動観察から「おおむね満足できる」状況（B）を上回る「十分満足できる」状況（A）と判断した。

8 指導の実例

事例のポイント①（1／10時）

児童が普段使用している体育着袋、給食袋、学習用手提げ（教室移動の際に教科書などを入れるもの 例：音楽バック）等を観察させる。形が同じ体育着袋と給食袋を比べさせ、その袋が逆だったら小さすぎて体育着が袋の中に入らないことに気付かせる。また、体育着袋と学習用手提げを比べさせ体育着袋が手提げ型だと、中身が落ちてしまう心配があることにも気付くようにする。このように観察を通して、身近な袋はその目的に応じて、形や大きさ、生地の種類などが工夫されていることに気付けるようにし、袋の製作につなげていく。

事例のポイント②（3／10時）

5年生で学んだ知識や技能、製作物の反省を生かして問いを立て袋作りに取り組ませるようにする。

5年生で学んだ知識や技能

- ・返しぬいをするとうさぎになる
- ・ミシンの使い方
- ・ポケットのつけ方
- ・アイロンの使い方
- ・まち針の使い方
- ・布の裁ち方
- ・チャコペンの使い方

5年生の製作で工夫したこと、できなかったこと、使ってみての感想

- ・製作時間がなくなり、あせってまっすぐぬえなかった
- ・ひもがとれやすかった
- ・洗うごとに、糸がほつれてきた

問い

糸がほつれないナップザックを作るには、どうしたら良いだろうか。

I C T活用の利点①（3～9／10時）

自分の作りたい袋の作り方を調べる際、自分の進捗やわからない内容に合わせて、必要な情報を何度でも確認することができる。また、配慮が必要な児童には、実態に合わせて資料の内容を変えることもできる。（ふりがなつきの資料、手順がより細かくなっている資料等）



I C T活用の利点②（4～9／10時）

ミシンの準備の仕方の動画を児童が自席で見られることで例示をする時間を省くことができる。

また、児童は自分がわかっていないミシンの動作部分だけ見ることができたり、分かるまで何度も確認したりすることができる。



I C T活用の利点③（4～9／10時）

児童に、製作物を撮影させ、毎時間授業の振り返りを入力し、提出させると児童の進捗把握や支援、評価など様々な活用ができる。

- ・その時間中の製作物の進捗を把握することができる。
- ・振り返りの記述の中に製作過程の中で困っていることが書いてあれば、それにアドバイスをすることができる。
- ・自分の立てた問いに対する工夫や考えが書いてあれば、主体的に学習に取り組む態度の評価資料とすることができる。



【毎時間の振り返りカード（例）】

ナップザックロあきのミシン縫い

振り返り

糸の色に気をつけて縫うことができた。
縫い方を動画で確認したり、友達に聞いたりした。

